

第5, 6年 国語科学習指導案

日時 平成16年9月17日(金) 5校時
児童 第5学年 女子3名
第6学年 女子1名 計4名
授業者 高橋 佳代

1 単元名 ブックトークをしよう(特設単元)

2 教材名 ブックトークの名人はだれだ

3 単元について

(1) 教材について

この教材は、5年生の読書単元「読書の楽しさを伝え合おう」、6年生の読書単元「作品と出会う、作者と出会う」の発展として位置づけており双方の単元の後半に位置づいている読書発表会を学級の実態から合同で行い、個々の話す力・聞く力の不足を補う単元として設定したものである。また、ブックトークを通して話すことや聞くことに関心を深めたり、話の組み立てを工夫しながら話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞いたりすることをねらいとしている。

そこで、相手にとってわかりやすい内容にするためには効果的な話の組み立てをすることが大切であることを理解させ、話し手は、メモをもとに相手を意識しながらブックトークをすること、聞き手は、観点を決めて話の内容を聞くことで個々の話す力・聞く力を育てたいと考えた。

(2) 児童について

5年生の児童は、学習に対して前向きであり、意欲的に取り組もうとする気持ちが強い。5年生になってからは、「わたしたちはこう考える」で、自分の立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことを学習してきており、日常の自分の考えを話す場面では、根拠をはっきりさせながら話すことができるようになってきている。しかし、ちょっとでもつまずいたりすると自信を失い、とたんに消極的になってしまう傾向がある。

A・Y 自分の興味・関心があるかないかによって聞く態度が大きく違い、興味・関心があるときは、話の内容を聞き逃さずにしっかり聞くことができるが、そうでないときは聞き逃してしまうこともある。自分の考えを話そうとする意欲はあり、はりきって発言するが、話の要点がまとまらず途中で混乱してやめてしまうことがある。

T・K しっかり話を聞こうとする態度は見られるが、最後まで聞かないで早合点してしまうことがある。自分の考えを話そうとする意欲はあるのだが、話そうとする内容を整理して要点を簡潔にまとめて話すのが苦手である。

N・K しっかり話を聞こうとする態度はある。人前で話をするのが苦手な、事前に自分の考えを誰かに見てもらってからでない自信をもって話すことができない。また、自分の考えは思いつくものの、その根拠を考えるのに時間がかかるときがある。

6年生の児童は、日常会話をするという点では何の問題はないが、1名ということから普段の学習では教師と1対1のやりとりになり、相手を意識して話すという意識が薄く、人前で話すことにも抵抗がある。6年生になってからは、「学級討論会をしよう」で、相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝える学習をしてきてはいるが、相手の意図を聞き取る場面でも自分の主張を伝える場面でも教師の支援が必要であり、なかなか自分一人では学習を進めることができない。

K・D しっかり話を聞こうとする態度は見られるものの、話の要旨をとらえて聞き取ることはできない。

自分の思いを話すことが苦手であり、前もって準備して誰かに確認してもらってからでない自信をもって話せないことが多い。しかし、最上級生になって人前で話す機会が多くなり、以前より抵抗なく話すことができるようになってきている。

(3) 授業にあたって

自分の紹介したい本を「ブックトーク」という形で先生方の前で紹介をするという目的意識を持たせ、学習を進めていくことができるようにする。

単元の導入段階では、ブックトークの方法を知り、ブックトークのイメージや学習の見通しをもつことができるようにしたい。

練習の段階では、わかりやすく伝えるためにはどのようにすればいいかを話し合う活動を取り入れ、話の順序を考えるなど効果的な話の組み立てをすればよいことを学ばせたい。そして、話す内容を明確に持たせるために組み立てメモを作り、それをもとに発表できるようにしたい。また、聞き手は、相手の伝えようとした内容の概要を理解し、発表された本の内容についての質問や感想発表をする活動を行う。その際、相手を意識して相互に関わり合いながら話すことができるようにしたい。

紹介する本に関しては、同一単元ではあるが各教材の発展として学習させるため5年生はテーマに沿った本を紹介することとし、6年生は宮澤賢治の作品を紹介するようにする。

4 複式指導に関わって

6年生1名だけという状況にあるので、「話す・聞く」の単元の中での話し合いや討論会などをする場面では、複式の指導過程の中で、一人だけでは活動ができないことがある。したがって、特設単元を設定し5,6年合同の学習をすることで、他学年や先生方と合同の活動を組み入れることにより、個々の話す力・聞く力の向上を図りたいと考えた。

5 単元の目標

紹介したい本について、テーマを意識しながらブックトークしようとする。

(国語への関心・意欲・態度)

話の組み立てを工夫し目的や場に応じた適切な言葉遣いで本を紹介したり、話し手の意図を考えながら発表の内容を聞いたりすることができる

(話す・聞くこと ア イ)

読んだ本の内容や構成をみんなに伝えることができるような文や文章の構成を考えることができる。

(言語事項 オ(ア))

6 指導計画(全4時間)本時 3/4

時	主 な 学 習 活 動	評 価 規 準
1	・ブックトークの方法を理解し、自分の紹介したい本のテーマを考える。	・ブックトークに興味を持ち、テーマについて進んで考えている。
2	・効果的な話の組み立て方を理解し、紹介したい本の発表メモを作る。	・わかりやすい話にするために話の組み立てを工夫しながら発表メモを書いている。
3	・発表メモをもとに練習をし、ブックトークをする。	・話の組み立てや言葉遣いを考えながら、ブックトークの留意点に気をつけて発表している。
4	・見直した点について再度練習し、先生方を相手にブックトークする。	・見直した点を改善し、発表している。

7 本時の指導

(1) 目標

自分の紹介したい本について、テーマに沿ってわかりやすく伝えようとする。

(国語への関心・意欲・態度)

自分の考えや意図が伝わるように話の組み立てや言葉遣いを考えて、本を紹介することができる。

(話す・聞く)

適切な言葉を使いながら、話の構成に気をつけて話すことができる。(言語事項)

(2) 評価規準

・話の組み立てや言葉遣いを考えながら、ブックトークの留意点に気をつけて発表している。

(3) 本時の基礎・基本

・テーマが分かるようにブックトークすること。

・話の組み立てや言葉遣いを考えて話すこと。

